

“災害情報における放送と通信の連携研究会”報告

「クロスメディア・マルチプラットフォーム
住民一人ひとりへ次世代の災害情報伝達」

2008年7月12日

研究代表 藤吉洋一郎

研究の目的

●目的

地上デジタル「放送」と携帯電話をはじめとする「通信」の両メディアの特性を生かした最適な災害情報伝達の可能性を探る。



●コアメンバー

藤吉洋一郎(代表)、大西勝也、小田貞夫、加藤宣幸、川端信正、蔡垂功、桜井美菜子、鷹野澄、田代大輔、谷原和憲、東方幸雄、中村功、中村信郎、水上知之、天野篤(幹事)

研究活動実施状況

2007年度			
5・11	河川情報センター	佐藤宏明氏	デジタル時代の河川情報提供講演
6・11	NTTドコモ	伊藤正憲氏他	NTTドコモの防災への取り組み講演
7・13	防災科学技術研究所	長坂俊成氏他	災害時要援護者の避難支援システム講演
8・03	NTTドコモ	伊藤正憲氏他	ネットワークテクニカルオペレーションセンター見学
9・12	新潟県中越沖地震被災地周辺		長岡市役所・北陸地方整備局・NHK新潟放送局他
10・19	NTT東日本	東方幸雄氏他	NTTグループの防災対策
3・14	韓国	ソウル	「CBS・DMB・データ放送事情」視察
3・19	堺市	大和川	地上デジタル放送実証実験見学
3・20	京都	NHK	データ放送の河川情報視察
3・21	大阪	京大防災研	シンポジウム <防災・減災と報道の役割>

報告会開催趣旨

防災情報がデジタルに移行し即時化・細分化が進み、ニーズへと近づいてきている。

最新の仕組みを用い、住民一人ひとりにいかに伝え、減災効果を高めていくか...

放送では、2011年を目前にしている地デジのデータ放送やマルチ編成、ワンセグ等、通信では、インターネット技術やモバイルの進化と普及、CBS等の新技術が活用段階に入った。

日本災害情報学会“第2次デジタル放送研究会”では、(財)放送文化基金の助成・援助を受け、放送と通信の融合の先進事例をもつ韓国視察をはじめ国内外の調査を通じ、両メディアの技術動向や特性に基づいて、どう組み合わせれば、災害情報の伝達に有効になるか探った。

今般、地震時、洪水時、韓国との対比という切り口から、調査研究成果等を報告し、公開討論を行う。

報告会プログラム

2008年7月12日(土) 東洋大学 総合司会 田代大輔(気象キャスターネットワーク)

13:00～13:10 開会挨拶・研究活動概要 藤吉洋一郎(大妻女子大学)

13:10～13:50 第Ⅰ部 地震時の情報提供 天野 篤(NIED・アジア航測)

招待講演:地デジ時代の災害報道・2007新潟県中越沖地震 鈴木郁子(NHK)

話題提供:2007中越沖、2008岩手・宮城内陸地震時の171安否確認

東方幸雄(NTT東日本)

長岡市が取り組む多様な災害情報伝達 澤 陽之(SFF・アジア航測)

13:55～14:35 第Ⅱ部 洪水時の情報提供 藤吉洋一郎

招待講演:放送と通信を活用した河川情報の提供 佐藤宏明(FRICS)

話題提供:荒川下流河川板橋区避難訓練実験を視察して 鷹野 澄(東京大学)

大和川河川堺市避難訓練実験を視察して 蔡 垂功(大阪市)

<休憩>

14:50～15:35 第Ⅲ部 韓国における災難情報提供 天野 篤

帰朝報告:韓国における携帯電話(放送と通信)を用いた災難情報伝達

中村 功(東洋大学)

KBS(韓国放送公社)の災害放送の今 大西勝也(大妻女子大学)

ユビキタス社会の住民一人ひとりへの防災情報提供 水上知之(三重県)

15:40～16:40 第Ⅳ部 総合討論・総括(提言) 藤吉洋一郎

パネリスト:天野 篤 國崎信江(子どもと大人の危機管理教育研究所)

佐藤宏明 鈴木郁子 東方幸雄 中村 功

16:40～16:45 閉会挨拶 中村 功